

## 2022 年度 第 1 回 鋼構造運営委員会 議事録

1. 日時 2022 年 5 月 24 日 (火) 13:30~17:00
2. 場所 304 会議室+オンライン開催 (Zoom)
3. 出席者 五十嵐規矩夫, 岡崎太一郎, 聲高裕治, 石田交広, 石原直, 井戸田秀樹,  
(敬称略) 宇佐美徹, 尾崎文宣, 越智健之, 兼光知己, 吉敷祥一, 木村祥裕,  
窪田伸, 桑原進, 小野潤一郎, 澤本佳和, 竹内徹, 田中剛, 津田恵吾, 成原弘之,  
西山功, 原田幸博, 見波進, 山田哲, 山田丈富, 村上行夫 (記録)  
下線: 欠席者
4. 資料 (ストレージサーバ)
  - 01-01 議事予定 (五十嵐主査)
    - 01-01-01 運営委員会委員名簿 (五十嵐主査)
  - 01-02 2021 年度第 4 回鋼構造運営委員会議事録案 (村上幹事)
  - 01-03 構造本委員会関係 (五十嵐主査)
  - 01-04 座屈小委員会資料 (木村委員)
    - 01-04-01 構造委員会査読高田委員 (木村委員)
    - 01-04-02 構造委員会査読堺委員 (木村委員)
  - 01-05 接合小委員会資料 (桑原委員)
  - 01-06 素材小委員会資料 (見波委員)
  - 01-07-01 次世代設計規準検討小委員会 (山田哲委員)
  - 01-07-02 時刻歴耐震設計検討 WG 設置申請書 (山田哲委員)
  - 01-08 各種合成構造指針改定小委員会資料 (吉敷委員)
  - 01-09 環境小委員会資料 (岡崎委員)
  - 01-10 塑性設計小委員会資料 (聲高委員)
    - 01-11-01 軽鋼構造設計施工指針改定小委員会資料 (竹内委員)
    - 01-11-02 軽鋼構造設計施工指針査読用原稿 (竹内委員)
  - 01-12 耐火設計小委員会資料 (尾崎委員)
  - 01-13 鋼管トラス構造設計施工指針改定小委員会資料 (越智委員)
  - 01-14 鋼構造限界状態設計指針改定 WG (井戸田委員)
  - 01-15 災害委員会等関連委員会資料 (欠番)
  - 01-16 学会図書の質疑に対する回答状況一覧 (聲高幹事)
  - 01-17 若手優秀発表選考実施要綱 2022 (五十嵐主査)
  - 01-18 今年度 (2022 年度) 大会 PD (欠番)
  - 01-19 来年度 (2023 年度) 大会 PD (欠番)
  - 01-20 重点審議資料 (山田哲委員)
    - 01-20-01 アンケート結果\_鋼構造次世代設計規準検討小委員会 (山田哲委員)
    - 01-20-02 重点審議履歴 (五十嵐主査)

## 01-21 鋼構造運営委員会委員交代（窪田委員）

### 5. 議事内容

#### (1) 委員名簿の確認

- ・ 資料 01-01-01 に基づき、今年度の委員名簿の案について五十嵐主査より紹介があった。
- ・ 各委員にて確認の上、修正があれば聲高幹事まで連絡のこと。
- ・ 新任の小野委員ならびに所属先が変更になった石原委員よりご挨拶があった。
- ・ 今後、建研や国総研からの委員参加も検討するが、当面は西山委員に橋渡しをお願いする。

#### (2) 前回議事録の確認

- ・ 資料 01-02 に基づき、2021 年度第 4 回の議事録案を確認した。
- ・ 接合小委員会報告の 3 行目、「23 年度前半に構造委員会査読を目指す」を「24 年度前半に構造委員会査読を目指す」に訂正する。
- ・ その他については特に指摘等なく、承認された。

#### (3) 構造本委員会の動き

- ・ 構造本委員会は今年度まだ開催はなく次回は 22 年 7 月下旬予定である旨、五十嵐主査から説明があった。

#### (4) 小委員会・WG等の報告

- ・ 資料 01-04～01-15 に基づき、各小委員会・WG等の担当委員から活動報告があった。

#### 軽鋼構造設計施工指針改定小委員会（資料 01-11-01, 02 竹内委員）

- ・ 改定原稿案が完成したので運営委員会（石田委員、尾崎委員）の査読に進む。
- ・ 西山委員からの指摘に関しては原稿案に反映済み。
- ・ 査読期間は 7 月末を目安とし、次回運営委員会（8/2）で査読意見を紹介予定。

#### 座屈小委員会（資料 01-04, 01-04-01, 01-04-02 木村委員）

- ・ 4/27 に小委員会を開催。
- ・ SSRC からコラボ（座屈に関する諸問題を英文化して書籍にする）の打診があった。現在はまだ企画段階で、進展があればまた報告する。
- ・ 「座屈に関する諸問題 2022」に関しては、構造本委員会の査読意見に対応中で、次回構造本委員会までに回答を確認してもらい、査読完了を間に合わせ予定。主な査読意見の紹介があった。11 月中旬以降に講習会を予定。

#### 接合小委員会（資料 01-05 桑原委員）

- ・ 小委員会開催なし。次回は 6/4 に開催予定。次回運営委員会にて進捗報告予定。

#### 素材小委員会（資料 01-06 見波委員）

- ・ 小委員会開催なし。統計データ収集方法について引続き検討中。

#### 次世代設計規準検討小委員会（資料 01-07-01, 01-07-02 山田哲委員）

- ・ 3/19, 5/21 に小委員会を開催。
- ・ 時刻歴耐震設計検討 WG の立ち上げを検討中。→立ち上げに関しては承認 →後日、運営委員

会メール審議で詳細を詰める。

#### 各種合成構造設計指針改定小委員会（資料 01-08 （代理：五十嵐主査））

- ・ 小委員会開催なし。4/12 から構造本委員会の査読が開始された。

#### 環境小委員会（資料 01-09 岡崎委員）

- ・ 4/18 に小委員会を開催。
- ・ ASCE に投稿した英語論文の査読結果（2 回目）に対応して、再々投稿した。
- ・ 指針改定方針に関して引続き討議。例題を塑性設計指針と同じにする案も出ている。

#### 塑性設計小委員会（資料 01-10 聲高委員）

- ・ 3/21 に小委員会を開催。次回は 5/28 に開催予定。
- ・ 引続き指針改定（第 4 版）に向け内容検討中。接合部に関しては接合部パネルとそれ以外の接合部を分けて章立てとする予定。

#### 耐火設計小委員会（資料 01-12 （代理：村上委員））

- ・ 3/17 に小委員会を開催。次回は 6/3 に開催予定。
- ・ 指針改定内容に関して引続き討議。
- ・ 23 年 3 月に予定しているシンポジウム開催に関しても検討中。⇒企画書提出必要（運営委員会で審議→構造本委員会で審議）。予算の都合等もあるため、開催時期（3 月）に関しては早めに事務局に相談するのがよい。

#### 鋼管トラス構造設計施工指針改定小委員会（資料 01-13 越智委員）

- ・ 4/22 に小委員会を開催。
- ・ 指針改定内容を議論。3 月末で原稿案を収集した。現在、未完部分の対応を検討中。

#### 鋼構造限界状態設計指針改定検討 WG（資料 01-14 （代理：五十嵐主査））

- ・ 4/5 に WG を開催。
- ・ 引続き改定方針に関して討議。
- ・ 来年度から小委員会として活動予定。→運営委員会承認

#### 災害委員会等（資料なし 井戸田委員）

- ・ 特に報告事項なし。

#### その他

- ・ 学会規定で同一本委員会に属する小委員会の兼任数は 3 以内と定められており、鋼構造運営委員会で該当者あり。⇒該当する小委員会間で調整する。その他各小委員会で該当がないか確認のこと。WG から小委員会へ格上げする際は要注意。

#### (5) 学会図書質疑回答の報告（資料 01-16 聲高幹事）

- ・ 資料 01-16 に基づき、聲高幹事より質疑回答の状況報告があった。

#### (6) 2022 年度大会若手優秀発表賞選考について（資料 01-17 岡崎幹事）

- ・ 実施要綱の一部見直し（受賞日を HP に明記）を行った。→承認
- ・ 次回運営委員会で担当振分け表と採点表を確認する。

#### (7) 2022 年度大会 PD について（資料なし 五十嵐主査）

- ・ 軽鋼構造の各担当者にて PD 資料準備中。
- (8) 2023 年度大会 PD について (資料なし 五十嵐主査)
- ・ 各小委員会にて検討の上, 案があれば次回運営委員会までに提出のこと。特になければ塑性設計小委員会にお願いする。
- (9) 運営委員会委員交代について (資料 01-21 五十嵐主査)
- ・ 窪田委員から澤泉氏 (日本製鉄) へ交代。→運営委員会承認
- (10) DX タスクフォースへの回答について (五十嵐主査)
- ・ 環境小委員会よりあった意見を事務局経由で構造本委員会へ提出済。
- (11) 建築年報の執筆について (五十嵐主査)
- ・ 山田哲委員から原稿 (昨年度大会 PD) 提出済。
- (12) 重点審議 (資料 01-20, 01-20-01 山田哲委員)
- ・ 資料 01-20 により鋼構造次世代設計規準検討小委員会から活動内容の説明があった。
  - ・ 説明を受けて以下の自由討議があった。
    - 「規準」は一つ (鋼構造設計規準) でいいのか?
      - 「規準」や「指針」の関係性は重要で, 横並びなのか上下関係なのか, 整理は必要。許容応力度の下に弾塑性があるのはおかしい。現状, 全体のガイダンスがないので交通整理ができていない。全部の指針を分かっていると使えない状態。
    - 1つの運営委員会で1つの規準しか作れないという決まりがあるのか?
      - そういうルールはない。以前は, 法的バックグラウンドがあるものは「規準」、ないものは「指針」と言われていた。
    - 規準・指針で定められていないものとして, 例えば柱梁耐力比があるが, 学術的に定めるとかなり大きな数字となり実務には向かず, なかなか決めきれない。海外の例を見るとブラックボックス的に扱っているものもある。何をブラックボックスに入れるか? 分かっていることと分かっていることの整理が必要。
      - アメリカの柱梁耐力比は 1.2 だったと思う。おそらく, これくらいだったら大丈夫なのではないか, 程度の決め方だと思う。
      - また, アメリカでは規準間の関係性は ASCE-7 のもとすべて整理されている。その傘下の鋼構造設計が引用されており, それぞれに設計者が迷わないように解説ならびに参考文献の示唆がされている。その他, 章のタイトルだけがあり中身のないものもあり, 将来的にこういう章を記述するという意思表示のようなものもある。
      - 日本の規準・指針が審査基準としては使えないという傾向は, 体系として整理がなされていないからでは。アメリカでは, 体系が整理されていない限り, その構造種が採用されないので, 整理する動機が強い。
    - 若い人より年配者で改定要望が多いのは驚きである。

→ 年配者は規準・指針類を使い込んだ結果の要望では。

- 国際標準というのはいい提案。一方で、累積塑性変形を考慮するような日本らしい指針を準備するのも重要な観点。
- レベル2でも継続使用という風潮が高まっているが、レベル3を考慮する場合等あらゆる地震動の強さに対して建物を設計する際は、塑性設計は重要となってくる。社会背景や解析技術の発展を考えると、時刻歴を主体とする方向性があってもいいのでは。
- できるだけ最小の努力でユーザーに分かりやすい体系を作っていくことを目指したい。

## 6. その他

次回重点審議 来年度大会 PD について（塑性設計小委員会、鋼管トラス構造設計施工指針改定小委員会）

次回運営委員会 8/2（火） 13：30～17：00 対面併用開催を予定

第3回運営委員会 12/13（火） 13：30～17：00

第4回運営委員会 3/22（水） 13：30～17：00

以上